

か ざ は な

～夏秋号～
令和7年10月

施設長挨拶

日頃より、当施設の運営にご理解ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

さて、今年は6年ぶりにご家族の方と共に敬老会をする予定にしておりましたが、当苑において感染経路不明のコロナ感染が確認された関係で、急遽中止とさせていただきました。来苑を予定していただいていた多くの皆様方にお詫び申し上げるとともに、ご理解とご協力に感謝申し上げます。敬老会において各部門からの活動説明会を予定しておりましたので、広報誌裏面に各部門からの連絡事項等を掲載いたしましたので、ご覧いただければと思います。

おおたわら風花苑は平成19年3月に開設し、おかげさまで現在19年目となっております。現在入所いただいている方も含めて延332名の方に入所いただいております、10月1日現在で男性19名、女性41名の方に入所いただいております、最高齢は103歳、平均年齢は88歳となっております。

当苑は「生活の場」にあたりますので、引き続き入居されている方々が健康にその人らしく生活できるようサポートしてまいりたいと思います。

また、地域の皆様に支えていただきながら、国際医療福祉大学は開学30周年を迎えることができました。多大なるご理解とご協力を賜りました皆様に感謝申し上げます。11月には30周年記念のイベントも予定しておりますので、是非足を運んでいただければと思います。

施設長 佐藤 博基

行事の様子

7月7日に、ボランティア団体：那須ハングリーアンサンプルの皆様による演奏会を当施設で開催しました。
多くの楽器を使った演奏を聞き、利用者様たちも笑顔で手拍子をしながら演奏を鑑賞されていました。



那須地方では、お盆に古くからご先祖様を迎えるための行事の一つとして、8月1日に地獄の釜の蓋が開いたことを喜び、それぞれの家庭で炭酸饅頭を作ります。それを笹の葉を敷いてお供えし、自分たちも饅頭を食べるといった風習が今も残っています。

当施設でも栄養課主催で、利用者様と一緒にお盆についてのお話などしながら、炭酸饅頭づくりをしました。

出来上がった饅頭は、おやつとして提供させていただき、皆様おいしそうに召し上がられていました。



各部門からの連絡・お願い

相談員

田代 千秋

約3年前に風花苑へ異動してきました、田代です。入居者の様子のご報告やご家族様のご希望について対応いたします。風花苑での生活が安心して送れるように支援していきますのでよろしくお願いいたします。感染対策の観点から面会時間は9:00～11:00、14:00～17:00となっており、手作りの食物の持ち込みについても禁止しておりますのでご理解の程よろしくお願いいたします。最近はコロナ禍にはできなかった外出や外食などの行事も徐々に増えてきました。自宅への外出などご希望がある際にはお手伝いできますので、お気軽にご相談ください。今年の4月にホームページもリニューアルしました。行事などの様子も掲載していきますので、ぜひご覧ください。

介護

藤田 紘子

風花苑は、各ユニット10名の利用者に対して5名の介護職員が配属されており、早番・日勤・遅番・夜勤の4種の勤務形態があります。介護職員の9割以上は介護福祉士の資格を取得しており、地域的にも取得率が高いため、より専門的な支援を行える体制です。時間帯によっては職員が手薄になってしまう時間がありますが、可能な範囲で利用者の安全を守りつつ、穏やかに過ごせるように支援いたしますのでよろしくお願いいたします。

看護

高田 江梨

風花苑では、看護師5名で利用者様の看護にあたっております。年2回の健康診断のほか、日頃から利用者様のバイタルチェックや医療処置、回診の対応や必要に応じて病院への受診対応など健康管理の役割を担っております。夜間常駐の看護師はおりませんが、オンコールで対応させていただいております。利用者様が安全にそして安心してお過ごしいただけるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

ケアマネ

佐藤 将太

ケアマネジャーとして、利用者の施設サービス計画書を作成しています。計画書は利用者の自立を支えるための計画です。利用者の方々については、介護度の重い方が増えており、生活に対する希望を言える方が少なくなっています。家族の方々に、利用者の代弁者として、その方の好みや生活に対する希望を言っていただけると幸いです。よろしくお願いいたします。

リハビリ

齋藤 真弓

機能訓練では、主に体操やレクリエーション、個別の運動、手作業(作品作り)などを行っています。天気によっては散歩にもお誘いしています。生け花クラブもご家族様のご理解とご協力を賜り、活動が続けられています。日々無理のない範囲での運動や手作業等を通して皆様が笑顔になっていただけるような活動を行っていきたいと考えています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

栄養

松江 寛子

利用者が美味しく食事を摂ること、食事を楽しむことを第一に考えて献立作成・調理作業・盛付を行っております。年齢を重ねるに従って体の様々な箇所に変化が生じ、食事に対する意欲がわかなくなったりといったことが見られます。食べられる食品を増やすために、食材を柔らかくしたり、細かく刻んだり、とろみをつけるなどの飲み込み易くする工夫をしています。しかし、無理なく食事を摂ることも大切です。無理に食事の量を増やそうとすると、食べることが負担になってしまいます。食事以外の栄養補助食品等も活用しながら利用者の変化に早めに対処し、低栄養を予防していけるよう努めてまいります。